

## 西高野街道を往く

### I テーマ設定の理由

私の家から少し南に、古い家が立ち並んだ細い道があって、昔の高野街道だと聞いていました。毎年お墓参りに出かける河内長野市三日市町にも、旧高野街道という古い家並の道があります。すると、この道は今でも堺市の私の家の前までつながっているのだろうか、かねがね思っていました。

高野山へ詣でる人達でにぎわった高野街道とはどんな道だったのか、今でもいろいろな史跡が残されているだろうか、調べてみようと思いました。

### II 研究方法

- (1) 文献調査：旧地図、資料集を調べて、西高野街道が現在の地図の上でどこを通過していたか調べる。  
参考書から高野街道の歴史や、昔の町の様子などを調べる。
- (2) 実地調査：西高野街道の道路の様子、道標や街道に因んだ史跡、街道沿いの家の造りなどを調査する。

### III 研究内容

#### 1 高野山参詣のルート

高野街道は、高野山参詣の人達が往き来するためにできた街道であって、その出発点は京都でした。京の町から南へ向かい、河内の国へ入って現在の枚方市から東大阪市、八尾市、藤井寺市、富田林市というように、生駒山のふもとを南下して河内長野市に入るルートを東高野街道といいます。一方、京都から淀川を船で下って大阪へ向かい、堺市から河内長野市へ向かう道を西高野街道といいます。両街道は河内長野市で合流したのち、三日市、橋本をへて高野山へ続いています（これを中高野街道といいます）。この西高野街道の形成は平安時代までさか上ることができると言われ、もともとは四天王寺や住吉大社を起点としていたらしいとされていますが、後世に街道が整理されるようになってから、堺大小路を起点とするようになりました。この街道は堺という大都市と、大阪南部を結ぶ商業道としての機能を持っており、東高野街道

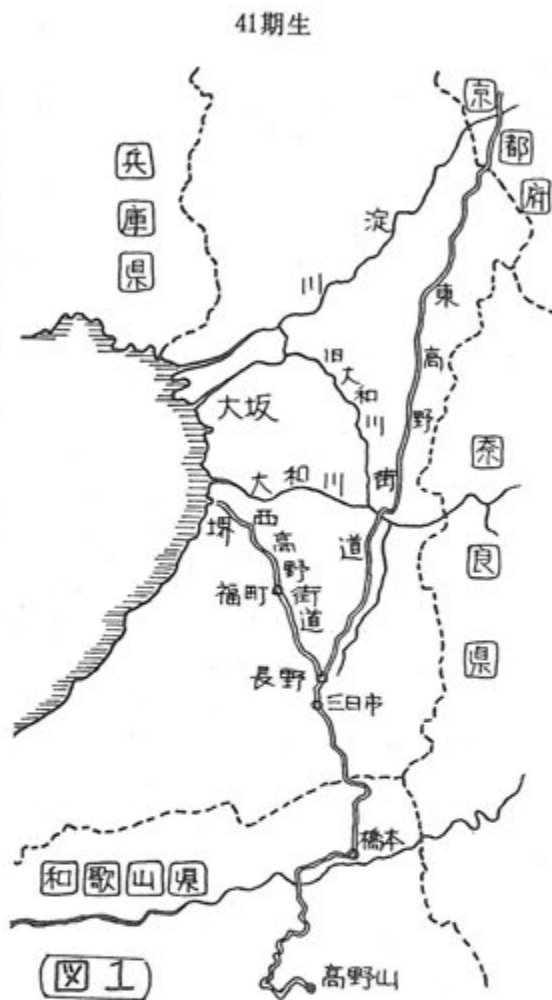


図1



図2

に比べて参詣者も圧倒的に多く、はるかに賑わったということ。

### 2 道標をたどって

#### (1) 堺市内の街道

起点の堺市大小路付近は、戦災で破壊され、昔のおもかげはまったく残されていませんでしたが、新しい道路わきに、明治35年に建立された石の道標①があり、ここが西高野街道だということを示していました。堺市榎元町の竹之内街道との分岐点近くに「是より高野山女人堂江十三里」と書かれた高さ170cmの道標②（写真2）を見付けました。同じような道標が一里ごとに6本ありました。

堺市梅北交差点から街道は、国道310号線の東側に沿って南下しており、途中、関茶屋・中茶屋という昔の地名を残した場所に、道標④⑤（写真6）⑥が残されていました。

#### (2) 大阪狭山市・河内長野市内の街道

街道は、大阪狭山市に入る手前で、国道310号と交差し、その東側に移り、河内長野市古野まで並行しています。大阪狭山市に入ってすぐの交差点に、根元からポッキリ折れた道標⑦（写真5）がころがっていました。

道標⑨（写真3）は天野山側道の分岐点に立つもので、このあたりの道路幅はわずか2.7mしかありませんでした。この山越えをして再び道路が国道に接近した所が茱萸木という土地で、古くからぐみの木がたくさん生えていて、旅人ののどの渇きをいやしたそうです。

河内長野市に入ると、地藏堂のそばに「右：平野四里、左：さかい大坂」と記された小さな道標⑩があって、道標⑫（写真4）と道標⑬は、自然石に彫られたもので一部はかなり風化が進んでいました。

街道は、この先で再び310号を横切り河内長野駅に接近



写真1

三日市宿  
中心部

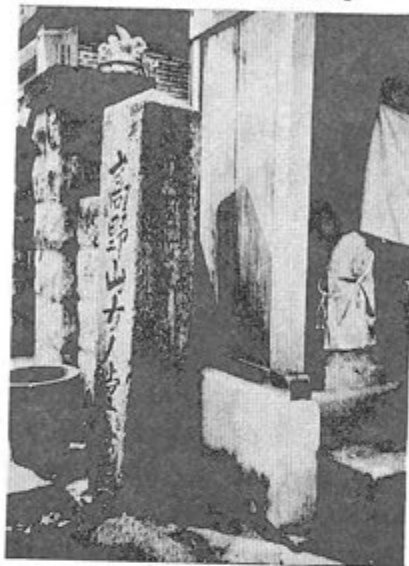
して行きます。そこでも2本の道標⑭があり、その先に東の方から南下してきた東高野街道との合流点があります。

合流点から少し先で西條川を渡る手前には、旧家や酒蔵が並び、まるで時代劇のセットの中を歩いているような気にさせました。また、旧三日市宿のあたり(写真1)には黒壁・格子窓の古い家が建ち並び、昔の宿場町の様子を今に伝えていました。

### 3 道標の種類と保存状態

#### (1) 高野山女人堂までの距離を記した道標

今回の調査区間で最も目についた道標は写真2のように高野山女人堂までの里数を記したもので、それらは②④⑧⑩⑭⑯の6か所に認められました。その側面には真言宗の念仏である「南無大師遍照金剛」という文字が彫られ、安政4年(1857年)の2月から3月にかけて設置されたものです。



▲写真2 道標②

#### (2) 古い道標

堺市中茶屋の交差点にある道標⑤(写真6)は、天明元年(1782年)に造られたものであることが読みとられるので、今日まで207年間道路わきに立っていたということがわかります。

#### (3) 側道を示す道標

⑥⑨⑪⑫⑬⑭⑮の7か所に、街道から分岐する側道の道標がありました。⑨は、天保3年(1842年)に造られたもので、⑥と⑩も天保年間に設置されたことが記されています。

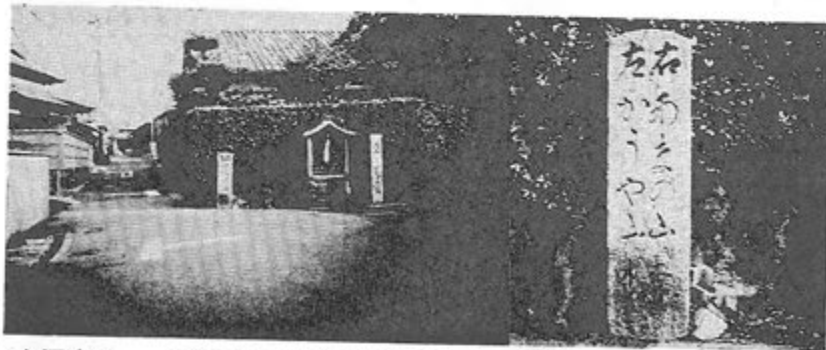
また、⑫(写真4)と⑬は自然石に彫られたもので、天保6年(1835年)に造られたことが、裏側に書いてありました。

#### (4) 明治時代に造られた道標

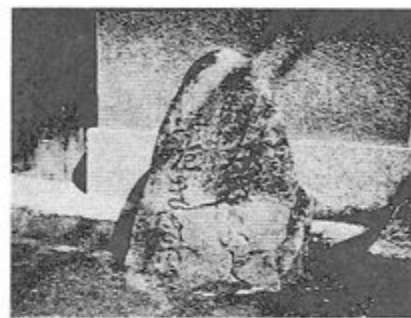
①と⑤の2つの道標のうちの1つは、明治35年に、また⑨の折れた道標(写真5)は明治38年に、それぞれ大阪府が設置したものです。

#### (5) 新しい道標

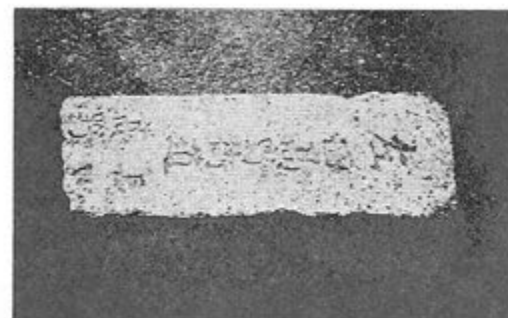
③(竹之内街道との分岐点)に建っている道標(記念碑)は、昭和62年にフジサ



▲写真3 天野山への側道分岐点に立つ道標



▲写真4 下部の文字が読めない道標⑫



▲写真5 折れた道標⑦

ンケイグループが古くて破損した道標に代えて設置したものです。

#### (6) 道標の保存状態

昔の街道はもちろん土のままの道路で、そこに道標が建てられていたはずですが、そこに、舗装する時、地面が高くなって道標の文字の一部が読めなくなっているものが②④⑩⑫⑬⑭⑮の7本もあります。写真2では里という字がコンクリートの下に埋まっていますし、写真4ではたぶん[右 さかい大岡 左 まきの山]と書かれた下の字が読めません。舗装の時に道路建設会社だけにまかせず、史跡管理責任者である都市が大切に管理してほしいと思います。

もっとひどいのは、⑦の道標で、写真5のように根元から折れて道路わきにころがっていました。なくなってしまうと2度ともとへもどらないものですから、こんな状態ではっておくのはとてもひどいことだと思います。これほどひどくはなくても、②は電柱のかけに、⑧は市内告知板の後ろにかくれて見えにくい状態でしたし、⑯は、まるでゴミ捨て場の目印ようになっていました。

### 4 道標と地藏堂

#### (1) 地藏信仰

写真2の道標②の後ろに地藏堂が写っていますし、写真3の道標⑨の横にも地藏堂が写っています。よく調べると②④⑤⑥⑨⑪⑭の7か所で道標と地藏堂がドッキングしているのがわかりました。中には2重のお堂を持つ地藏堂や、大きな祠のある立派なものもありました。

地藏信仰は、仏教と関係が深く、平安時代末から中世にかけて民間に普及して行きました。今日、〇〇地藏と呼ばれる名称は、100以上にも及ぶとされ、子育て地藏、子安地藏などの出産育児の祈願、いぼ取り地藏というような病気の祈願、田植え地藏、雨降り地藏などの農村の地藏などがあります。このような地藏信仰が民間に広がるにつれて人々は道の辻、橋のたもとなどに地藏を立てて祀るようになりました。この道路の交差点や分岐点には、道案内の道標も必要だったので同じ場所に建てられたのだらうと思われまます。

#### (2) 道標のお地藏様

堺市中茶屋の道標⑤のたもとはコンクリート製の地藏堂があり、その間に前かけをまいてもらったお地藏様のようなもの(写真6)がありました。お地藏様のうちの1つだけが外に出ているのはおかしいのでその前かけをそとははずしてみると、

写真右側のように「是より堺へ70丁 高野山へ11里 天明元年9月6日」と刻まれていました。上部に地藏尊のようなものが彫られています。これは明らかに道標とされます。しかし、その地藏尊のような彫物のために土地の人々が願をかけ、いつのまにかお地藏様のようなあつかいをうけるようになったのではないのでしょうか。道標が地藏になった、めずらしい例です。その前かけには女の子の名前が書いてあり、子供の健康な発育を願ったものと思われました。



▲写真6 地藏のように前かけをされている道標⑤

(注)  
前かけをとると道標の文字が現れた。  
(右側)

## 5 街道沿いの家々

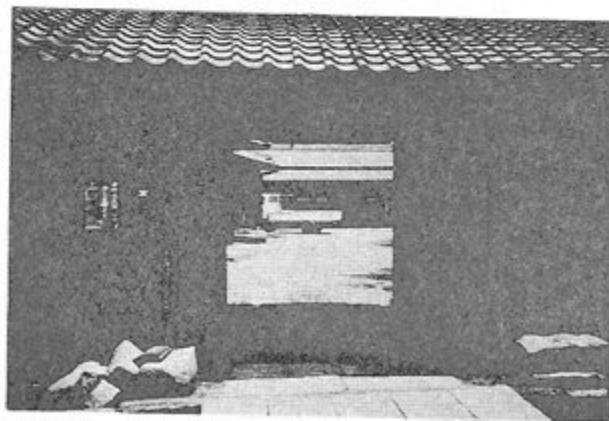
街道のたたずまいを残すあちこちの場所で、古い家々が残されていました。最も古い様子の家は、堺市内に3軒あって、いずれも黒い瓦屋根で汚れて一部がはがれ落ちているが、白壁で商家風と農家風の家でした。

### (1) 農家

街道に面して厚みのある建物があり、その一部が開かれて門のようになっている(門長屋)構造があちこちに見られました。この門を入ると中庭があって、せまいものでは15畳くらいから広いものでは中でバレーボールのコートができそうくらいの広さがありました。この中庭は農作業をするには重要な広場で農家の代表的な造り(写真7)です。

中央の庭に面して家族が居住する建物がある他に、収穫物を収納する納屋や、倉を持つ農家もあります。

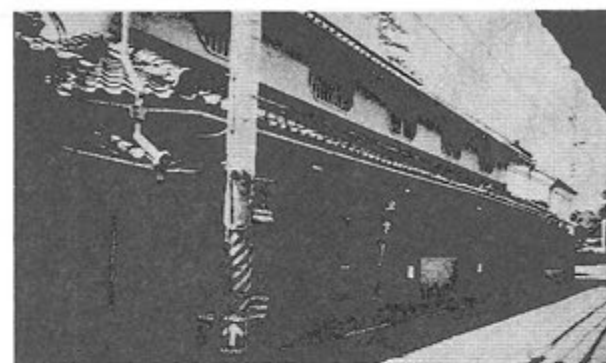
門長屋は、農作業をするのに必要な物を置く以外に農繁期にやってくる季節労働者などが仮に住む居間があって、この名前がつけられています。



▲写真7 門長屋から中庭を見る：代表的な農家

### (2) 商家

昔の商店には、ショーウィンドウというものはありません。だから一見普通の家の形をしています。商売のために屋内に広い土間が備え付けられています。写真8は長野の酒屋で、大きな酒樽が置いてあるのが見えます。



▲写真8 街道沿いの商家

### (3) 宿場町の旧家

写真1に見られるように、黒壁で大小の格子窓のある古い家が三日市宿の中心部に並んで保存されています。入口を入ると普通には2つの土間が続いており、入り口の近い方から客が上がり下りするようになっています。大変おもしろいのは、そのうちの2軒に木製の灯ろうが立っていたことで、日が暮れるところに灯を入れて門灯のようにしたのだと思われます。平家ですが二重屋根になっており、夏の強い日照りによる暑さを避けるための見事な工夫がしてあります。

## IV まとめ

- 1 西高野街道を堺市大小路から三日市宿まで調査したところ、a. 大小路-堺市役所間、b. 中央環状線-国道310号梅北交差点間、c. 大阪府立大学正門前約150mの区間を除いてすべての街道が確認できました。
- 2 その区間で16ヶ所、計18本の道標を見つけました。最も多いのが江戸時代末期に建てられた高さ約170cmくらいの石柱で、高野山女人堂までの里数が記されています。年代別に見ると、最も古いのは天明元年の設置で、今から約200年前のことです。こうした貴重な史跡も保存状態の悪いものが多く、だんだん失われていくのではないかと心配になりました。保存に力を入れてほしいと思います。
- 3 道標と地藏がドッキングしている所が多く見られました。中には道標が地藏尊と同じあつかいをうけているというおもしろい発見もありました。
- 4 街道沿いには古い農家、商家、宿場などの特徴を残す家が見られました。

## V 感想

暑い夏の日道路を調査するのに苦労したが、昔の人達が歩いた街道の一部を知り、当時のおもかげを残す家並を見て、高野詣でをしているような気になりました。今回の調査で特に感じたことは、失われていく貴重な史跡を大切にしなければならないということです。

## VI 参考文献

- ・堺市史・堺市史統編付図：堺市役所編 1975年
- ・河内みち行基みち：上田正昭編 法蔵館 1988年